

文化

私は、デンマークに大使として駐在しているが、草の根レベルでも柔道二段の特技を生かして外交に動いている。今年は、日本・EU市民交流年の。一月にコペンハーゲンの開港行事は、出陣の助言をまじり、東海大学デンマーク校の協力を得て柔道の演武を披露させていた。また、小豆な村にも道場、外務省勤務二十七年の間、

間に計八カ国を兼務進行脚した。フランスには一度にわたり通算七年半滞在したが、どんな小さな村にも道場があり、日本以上の普及ぶりだった。休日に車で旅行する時は柔道着をトランクに入れ訪れる先々の町道場で練習した。

一九六九年から二年間、ボルドー大学政治学研究院の研修生だった際は、大学付近の道場に頻りに通った。練習後は最寄りのバーに繰り出し、ビールを飲みながらから歓談。フランスの別の顔をみた。女性の柔道人口も多く、柔道の役割で親切にしてくれた。ある時、大学の構内を歩いていると、小柄なフランス人女性がにこにこ話しかけてきた。隣町で一緒に練習をしたことがあった黒帯だ。教師志望の彼女は私のリポートの添削を引寄せ、試験前にはノットまで見せてくれた。



コペンハーゲンで柔道の演武を披露する筆者の

黒帯大使、技あり外交

◇外務省勤務の傍ら柔道で車の根交流、言葉を超え理解◇

小川 郷太郎

郊外の国立体育大学へ行った。教官や学生たちは小山のような大男たちで、こちらの技が通じなかったり投げられり。練習後も体力仕事。息苦しいほど高温で巨大なサウナの中では、大男たちがクマのようなほえ声を立て、葉のついた木の枝で血行をよくするため



合うが、柔道と一緒に汗を流すと親密感が増す。時には練習後に料理屋で、大声を出し合っ

ル総領事時代には日系人のお祭りや技を披露して喜ばれた。また柔道大会にも出場した。私の年齢にちょうど良い相手がいないので、二十歳以下の日系米国人の柔術教師と組み合った。不覚にも最後に強烈な関節技を決められ敗戦、半年ほど右ひじが痛かった。

二〇〇〇年秋、初めてボシアには、大学の二部を借りた粗末な道場しかなかった。日本人の青年海外協力隊員が指導していたが、ポル・ポト時代に人材を失い、柔道人口が激減。たまにしか行けなかった私も指導を手伝った。暑いので柔道着は汗で、すぐ濡れそうなのよになるが、青年たちの多くは柔道着を着持っていない。本格的な道場を走り回ったが任期中には実現しなかった。ただ、フン・セン首相から善処を取り付けられた。青年たちの目の輝きは忘れぬ。

柔道は、言葉や書面だけでは理解できない外交の「行間」な部分を見

せてくれる。体を叩き合い苦痛を共にした相手との間に生まれる無言の理解や親近感は無量の財産だ。それは人種や国籍を超えて。

「また地球のおごりごとで日本」という座標を示してくれる。用語は全部日本語で、練習時の道場には世界のどこでも「セイザ（正座）」「レイ（礼）」などの声が響く。異国で、青少年たちが豊かに正座する姿を見ると、日本式礼儀や精神の高潔さに感動する。

一方で国際普及に、あく日本国大使

ペレストロイカ旋風が吹いた八〇年代末の旧ソ連で、私は経済担当参事官。体力が問われる四丁で町道場を探したが無く、国が旧ソ連流に柔道エリート集団を養成する

に互いの背中をたたく合

も最後に強烈な関節技を

また地球のおごりごとで

容疑ではないが日本は

2005年4月1日 日本経済新聞に掲載

日本経済新聞社の許諾を得て掲載しています。
無断複製・転載を禁じます。